

■日韓農業農村振興実務者ワークショップの開催

本ワークショップは今年度が第5回目で、日韓双方の技術力の向上、連携強化、中堅・若手職員の人材育成などを目的として、2月9~11日に韓国のソウルで開催されました。

日本からは、農林水産省農村振興局整備部設計課海外土地改良技術室の内藤久仁彦室長（前列向かって右から4人目）を団長として、行政や研究に関わる7名が参加しました。また、韓国からは7名の発表者の他、十数名のオブザーバーが参加しました。

（向井：後列向かって右から2人目、折立：前列右端）



今年度のテーマは「農業・農村資源の持続的利用」です。農工研からは「生態配慮型水路（向井：右発表者）」と「バイオマス利活用（折立）」に関する研究成果について情報を提供しました。また、韓国側から、日韓の水路システムの維持管理の違い、メタン発酵消化液の農業利用における環境影響評価などについて活発な質問を受けました。



ワークショップ2日目は韓国の大規模干拓事業セマングムプロジェクト（右写真は記念碑）を視察しました。当干拓地では、計画策定時、大部分を占めていた農業用地を産業やレクリエーション用地に転用するなど、多角的な開発計画が進められていました。

また、3日目は韓国・農林水産食品部農村政策局を表敬し、日韓の農業農村整備事業の類似性などについて説明を受け、意見交換を行いました。

